



特別
6700
1



15
6700



以今視之多，識於鳥獸艸木之
 名，莫邇於誹諧矣。古國風有誹
 諧，一途蓋倭歌之流也。變而為
 今之誹諧，其言綴淺近，意鈞玄
 妙，辭約理融，緣物以遣情，觸類
 以摠懷，言而無不可諷之，言物

△イ一



ろ

而無不可興之物兩儀斯摯焉
萬象斯竭焉媿美風雅彬彬如
也國初以來斯道大行鉅師名
匠相踵起其有執之也雖則人
人才殊偏長不同槩探深蹟出
風之所靡愈出愈奇叢劇腴諛

▲イニ

倒芙蓉於已高錦心繡口翔土
龍於未雲實洋洋乎一種風流
也然而作者猶病諸夫擬議之
跡變化固極架鑊之衷運思無
垠至易而至難非得之難能之
難也浪華晚鈴子以諧鳴從遊

如雲炳然旗幟于一方其博雅
麗藻世人所知又不贅言近者
輯錄今時諸名家研唱及其社
中佳什讚畫者若干首編成一
書名曰影法師集此集也由句
操一画由一画鎔句句中有画一画中

有句源醜而派滙滑稽之雅致
摘藻之壯觀是可謂之美盡
焉乎亦且晚鈴子用其所好炫
奇於一時也其友叙夕氏需序
爲序序將何言然以今視之多
識於鳥獸艸木之名莫邇於誦

諧矣私心嚮也久焉姑叙所聞
 以弁其始予固非知誹諧者也
 甲戌之春 無可散人譏



父母知る
 如發明此
 野大根



津怪齋々澤連

東沙菌

蟻磨



△イ五

短水やせ

干々々々

と々
 釣

瓶



津怪齋々澤

巳千堂

禽翁



白雨乃晴多短し蓮の文

同所
十声市

鷺民



團

織姫の蹟を

同所
栢見局

鳳歌

を如や糸層



團



草如名水
 治定一水
 昔如雨

同所

國香館

駒富



▲イ七



杖と突

片と

老農

水

同所

似石廊

羊葉



邪子榮つるハ
糸一若羽卒

同所
眠書園

猿澄



▲
イハ

種九日迄と

別きの分根う南 踏寫里

同所
掉花樓





唐

花子宿露の枝と
廿日此末よふ分

同所
止棘、休

蠅恒

八十九



独吟の筆持山の

か
ま

日
凌雲
鳥秀

唐

初雪や晴るもいさゝかの雨



同所

文角舎

牛彦



イ十

宿賃さぬ衣の
中は礎可南



同所
集冠臺

蟬人





朝霜

涎

河丁

車道

同所

黃鐘堂

帛姬



十一



晚樹亭

鹿文

鹿文

同所

晚樹亭

鹿文



ふふのをよるさるい

まのの月いさあうらと昔ふ

や、様さのせしめ

せうふせう

水海より奪ふかさくとして

雨をふらさすけい新う合舟の

仲くさねをさうしていさやと

くふ雨ふんいさあふいさあふ

ころおふんかたもえれいさうて

日影いさくさしあうかふん

つねいさうら



晴
後

あ
い
や
の

あ
く
せ
ら
か



芥川おゆふ

涸おゆふ

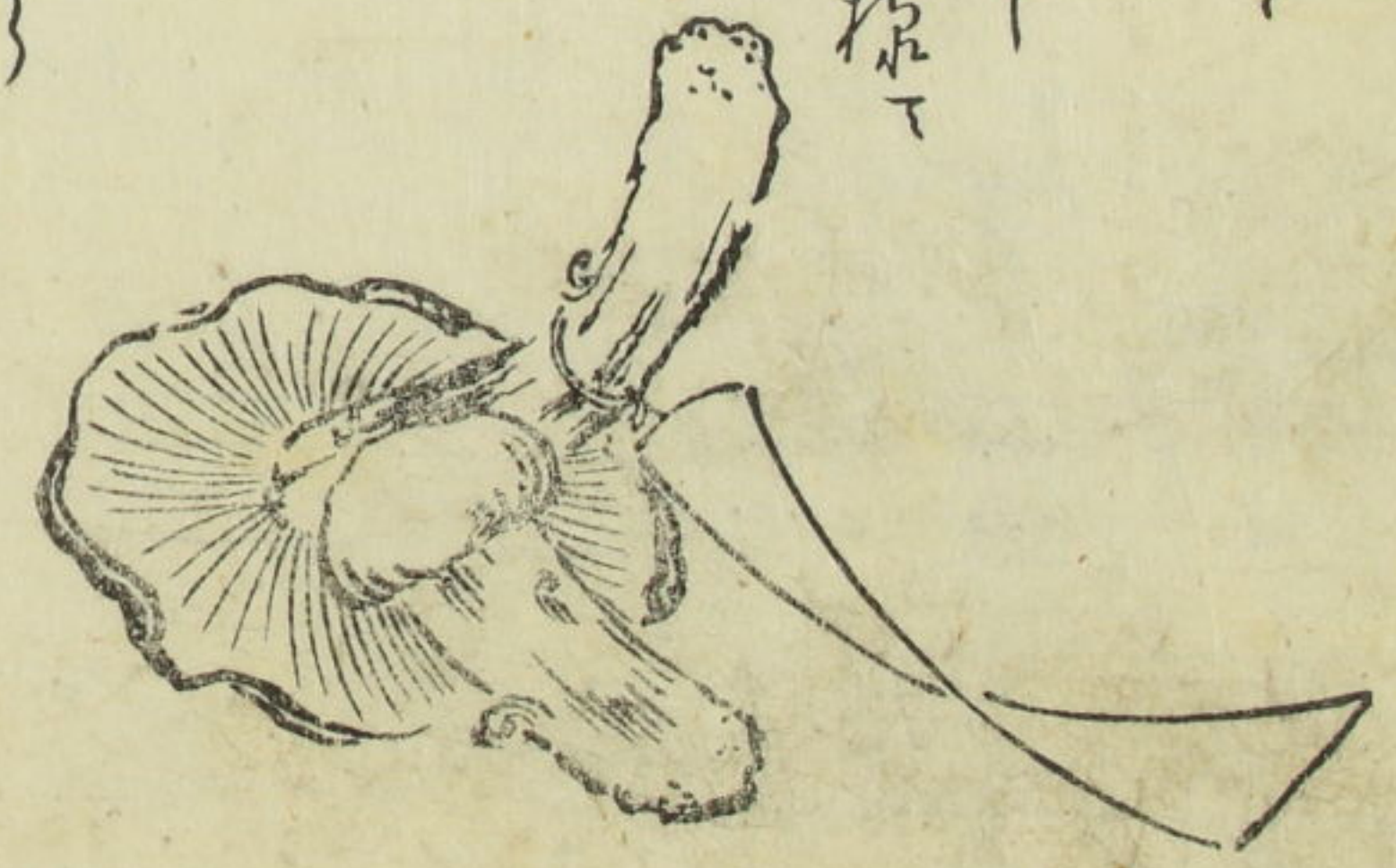
所々花の
草乃花



▲イ十四

夕花 惜小 云 春田 夕花
山花 又 夕花 夕花
夕花 始の 夕花 夕花
夕花 夕花

夕花 夕花 夕花
夕花 夕花



柏手や木乃葉尔
 割る角花表

儒主佛も家園の



泉南佐野
 桃戸



法所の位名記

岩井を去る一わ

存巧う岩

か一年やけつとてあるふ

まうて

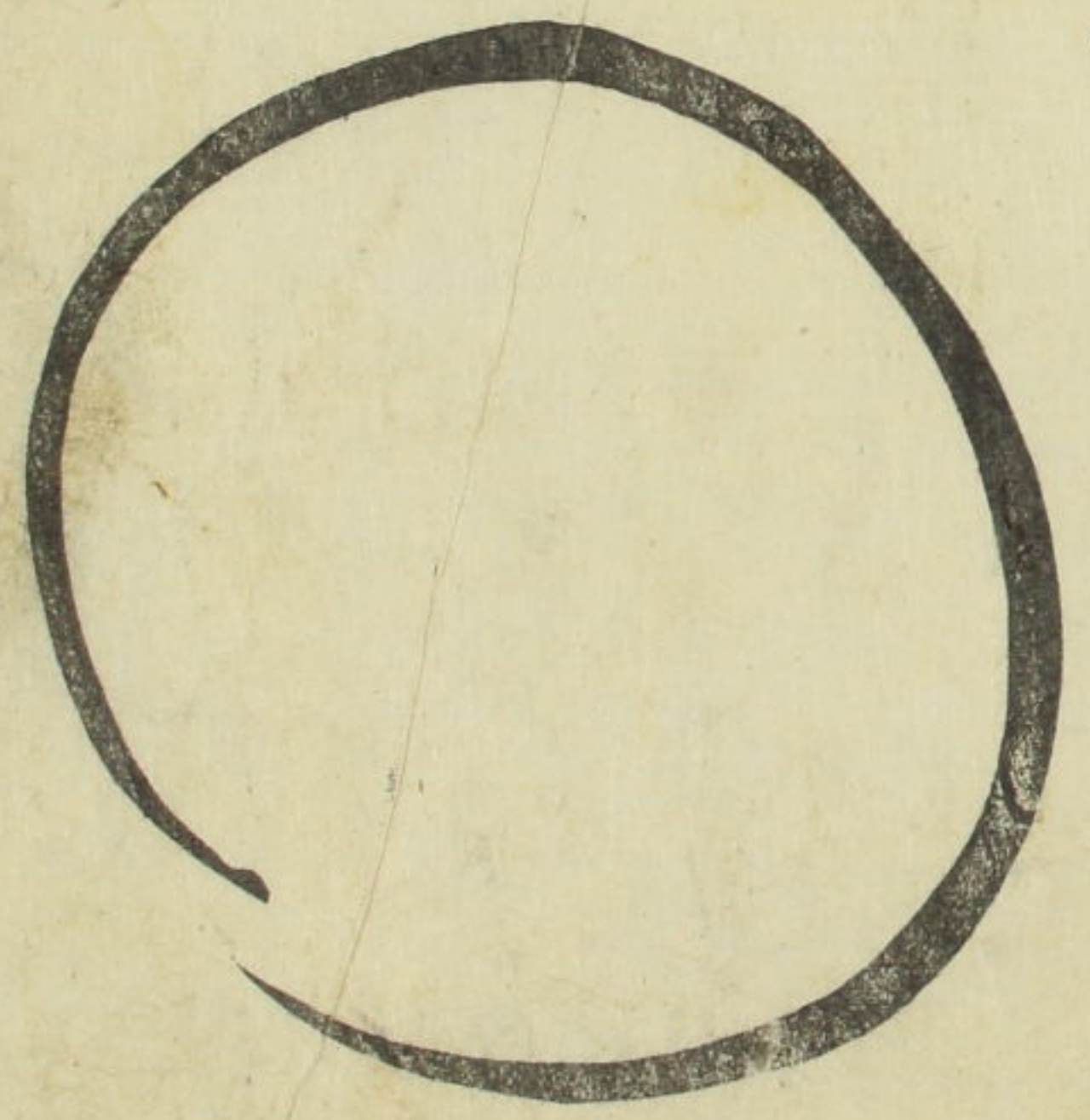
まを入して丹六うゆとせー

ゆとせー

背鳴館叙夕也



天台止觀と
 又
 酔
 吹や
 中庭法
 喜賀の
 沖



菱波

▲
 一十七



袖笠や葉肉

好一糸き多時雨

泉南佐野

左駝

夜具
引や
蕭々
踏足次
粥の炭
解晚養
春耕



▲イ十八

凍くわ
た、上者如
は、た
南畝





印

▲イ十九



印



蘭

画

書

蘭のめがひ

路長



八



静
 花
 如
 畫

如
 畫
 自
 画



公と海老
 心
 丁
 相
 葉

分蘆



▲イカ



父顔や
 松之巻巻

伊藤





▲イホ二

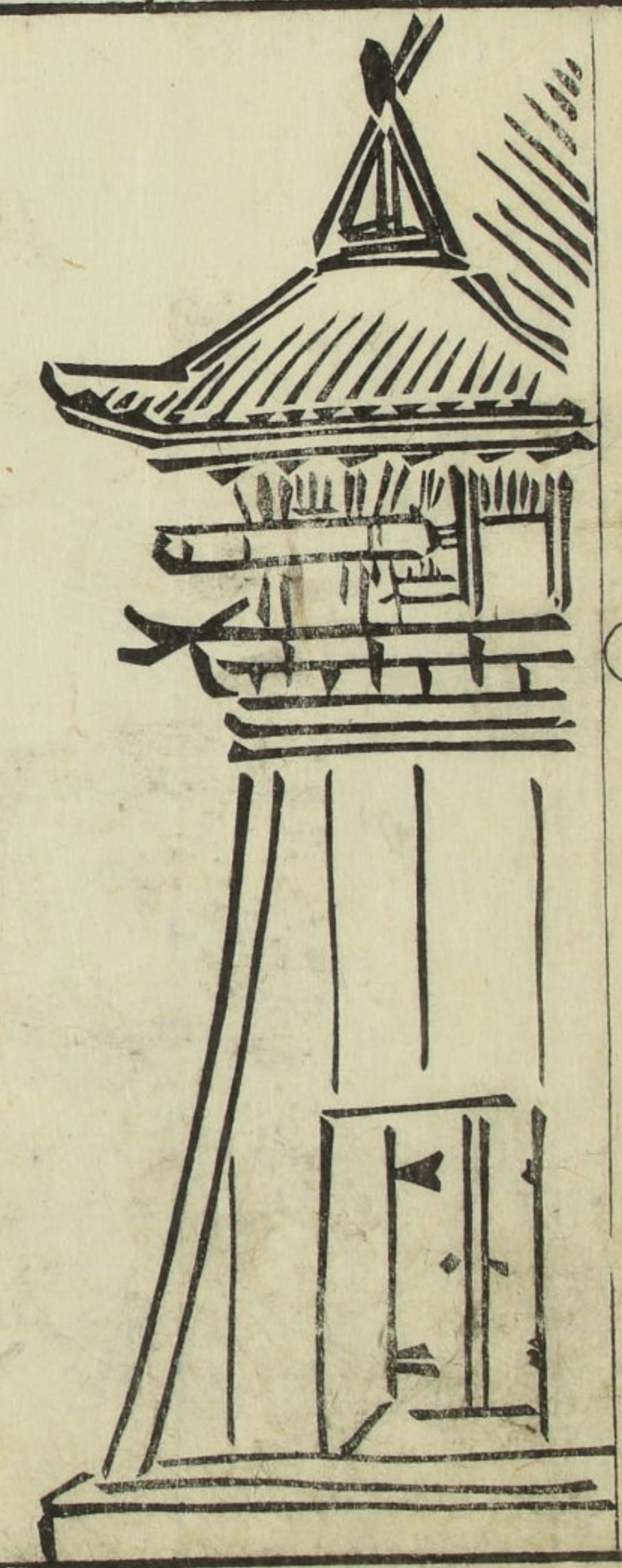


河骨を
除く
水陽、
神の馬

羽山



▲イ六三



日落く

こや船顔そ

身より短く

兵雙





芥摘や

痛き

忘き

琴の爪

枝燗



▲イホ四



あまお花

水の玉はく

花意

うさ

如水
自画



梅窓観
菊芥

▲イホ五



田田

山吹や
 貴女の
 はらへ
 踏
 にーま



叙々

▲イホ六



三月の
 二日
 夕
 香
 う南



巴
 桃



水より隔り
ありし蓮の如し

序南



宗論



▲イ六七

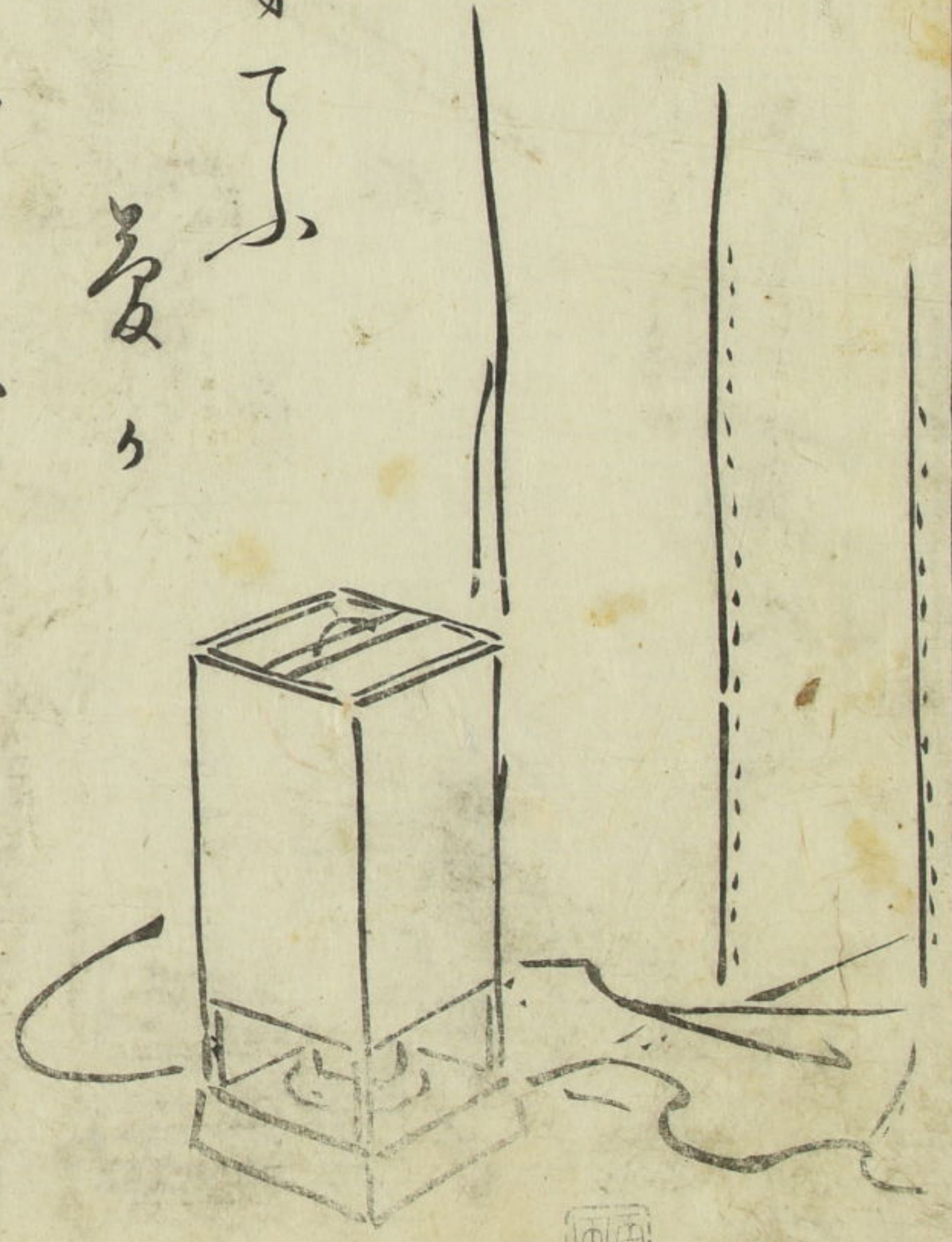
意寸了

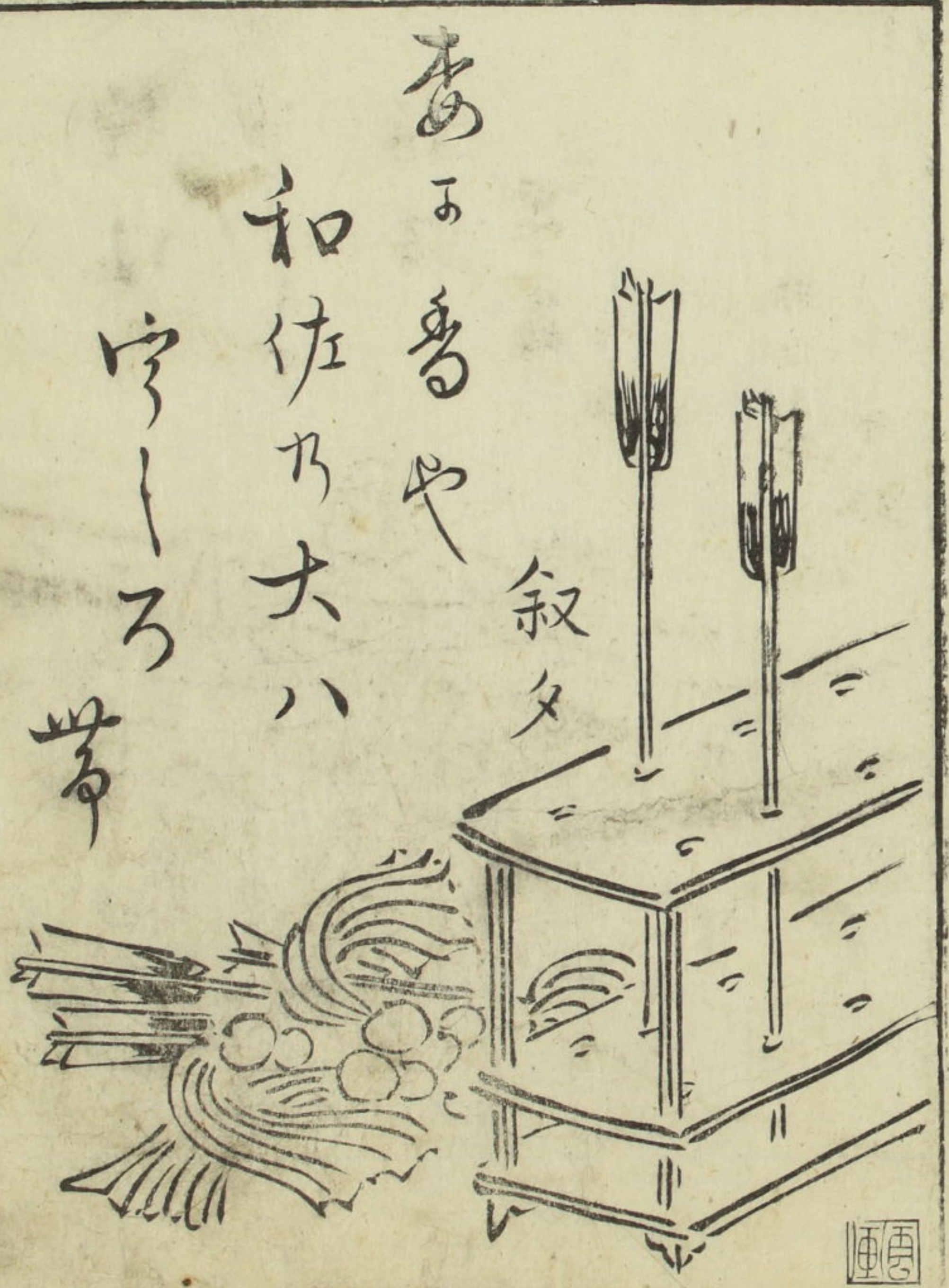
夏

かけろふ時

素流齋

羅上





安可香也

和佐乃大八

字一乃

帯

叙文

田田



傾城の

満子

植る

早苗

うゑ

路及之東

千虹

田田



かゝるるる

いふくぬ

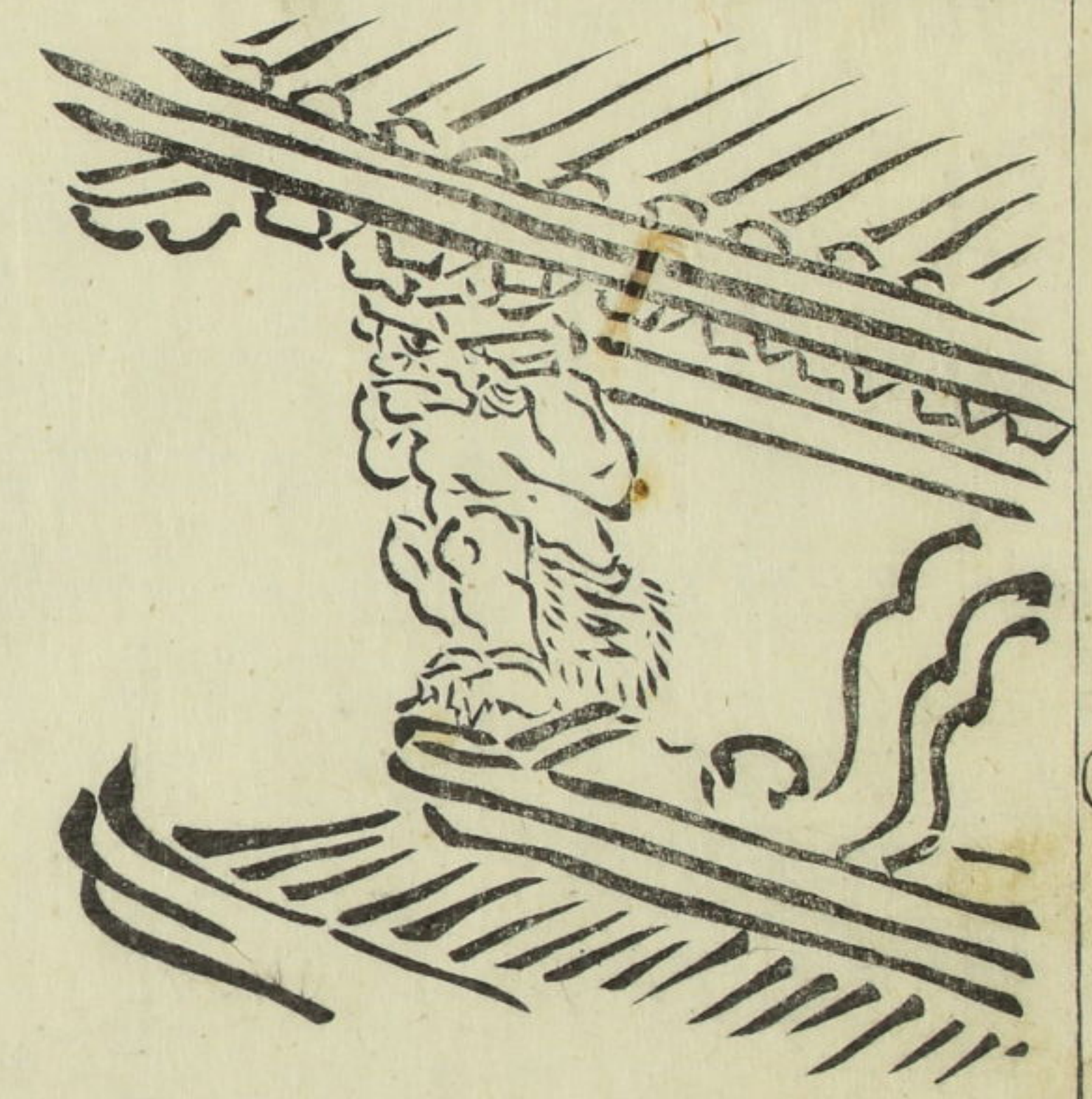
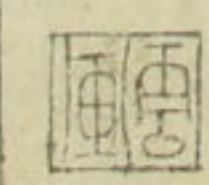
水乃

星乃

か車

一軒舎

▲イホ九



長海〜如花と咲く手力雄

松調新

重綱

朋友乃病床
全收誠賢一々

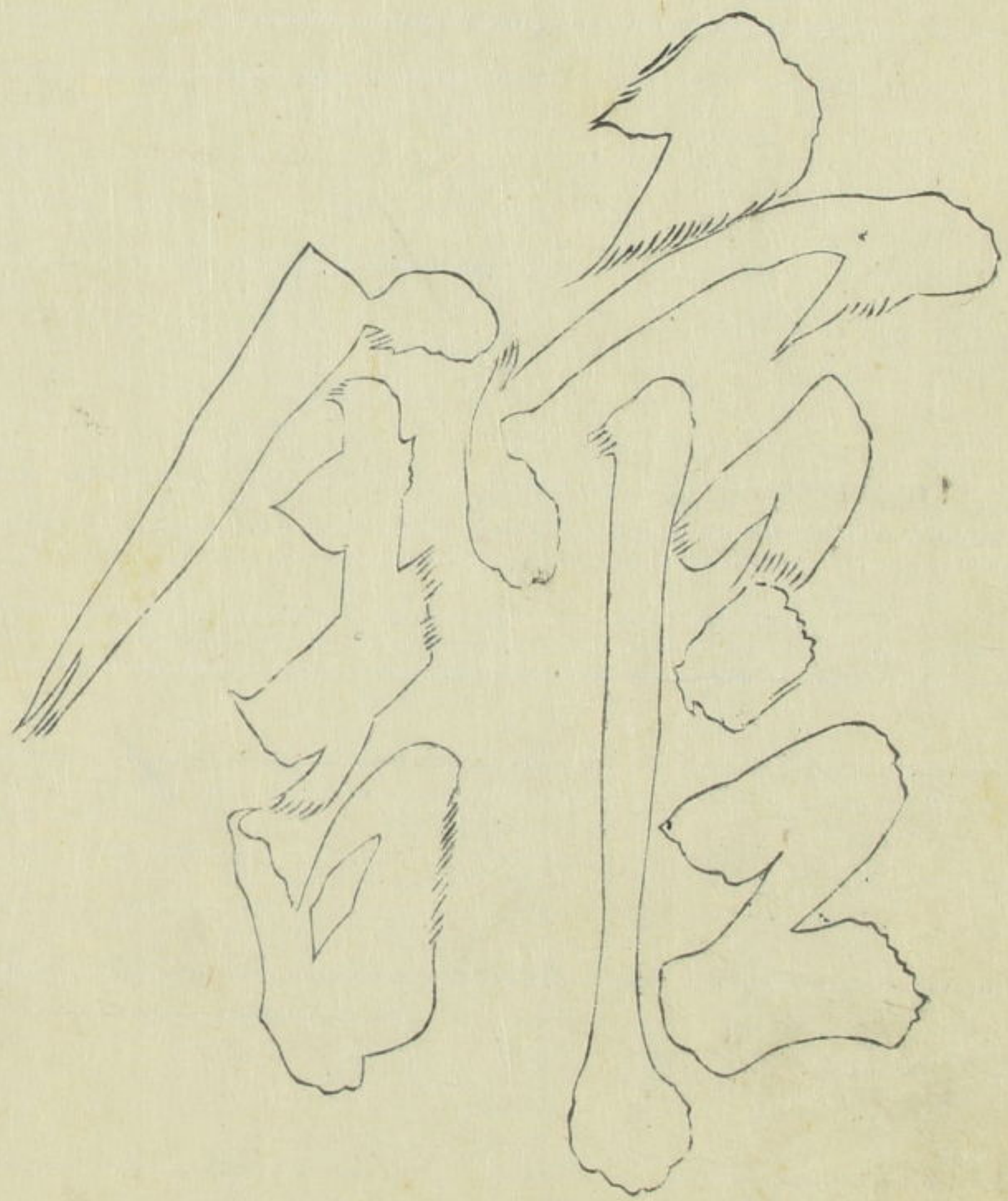


鳴

▲
イ
三十

一
正
可

前龍海院雲門禪師之毫



僕往年入門乃時右の
二字哉畫海の則
師於筆句あり

之
亦
松
也

分
之
唱
一

富貴
州

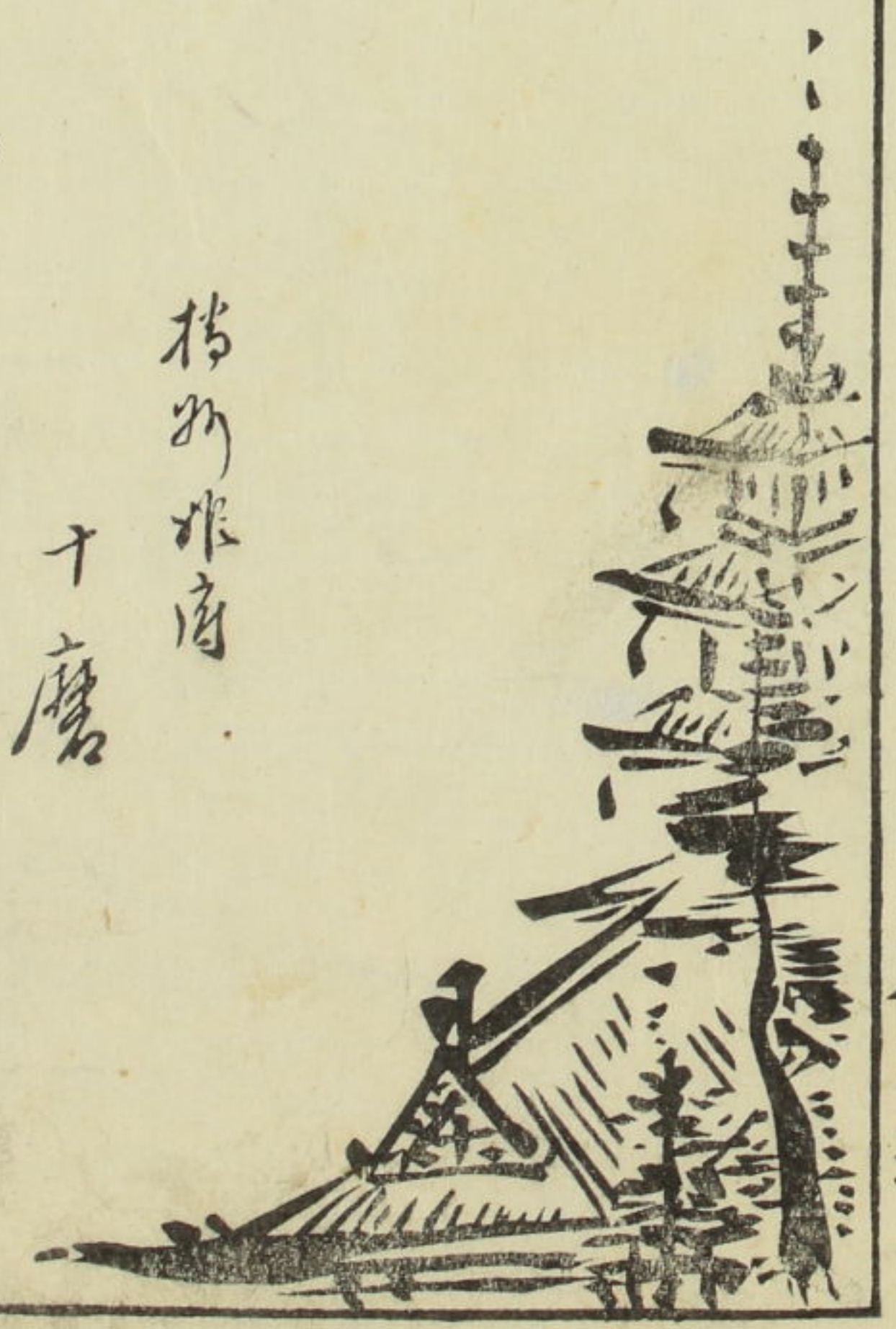
鳴乃一字尔尔或毒子
 日教子思小誓之老姬
 針上磨此教成之也

叙夕

鳴此六六

家口捨中

集如道



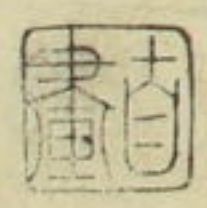
▲一三十二

指物非府
 十磨

六加

紙賣

五五



乳細唾入

あまのこ

粽の目

揚州八景初

十和自畫



▲イ三三

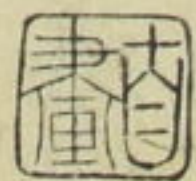
花山々々

又條の戸を

控くつら

揚州府

梅世





芝居果

田子界

喜乃

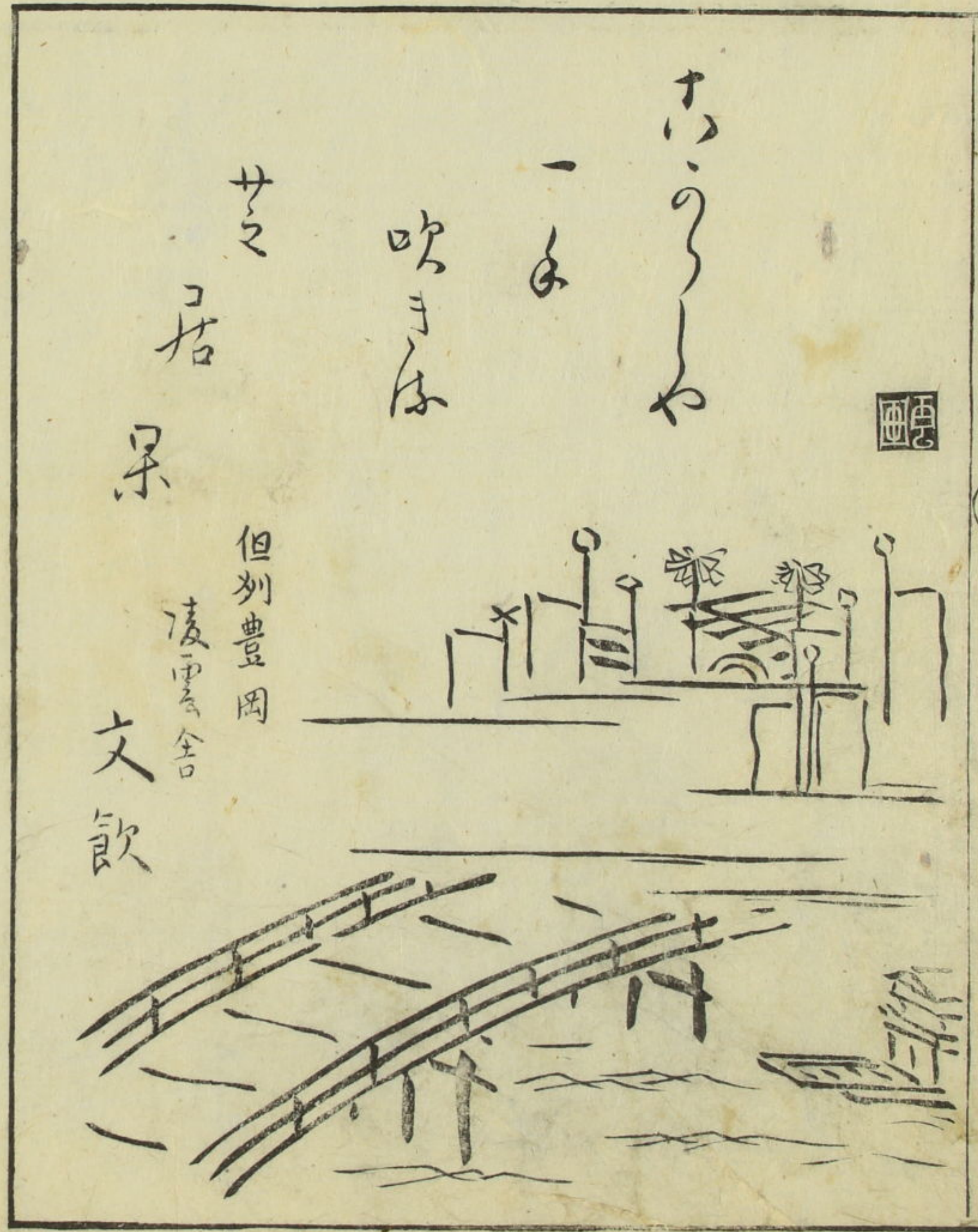
乃

明



京
九穗

▲一三十四



十のりわ

一

吹き

サマ

コ君

果

但列豊岡

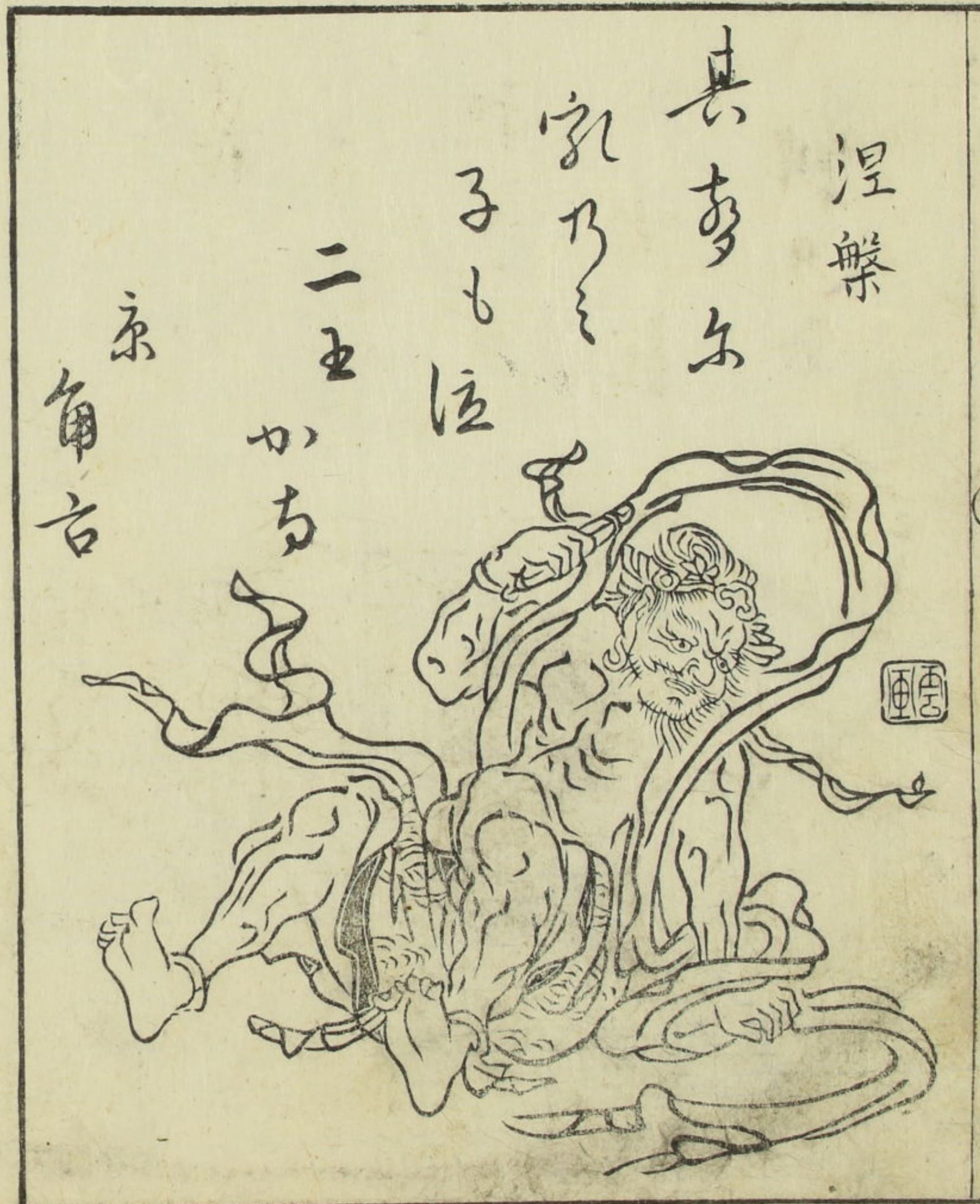
凌雲舎

文飲

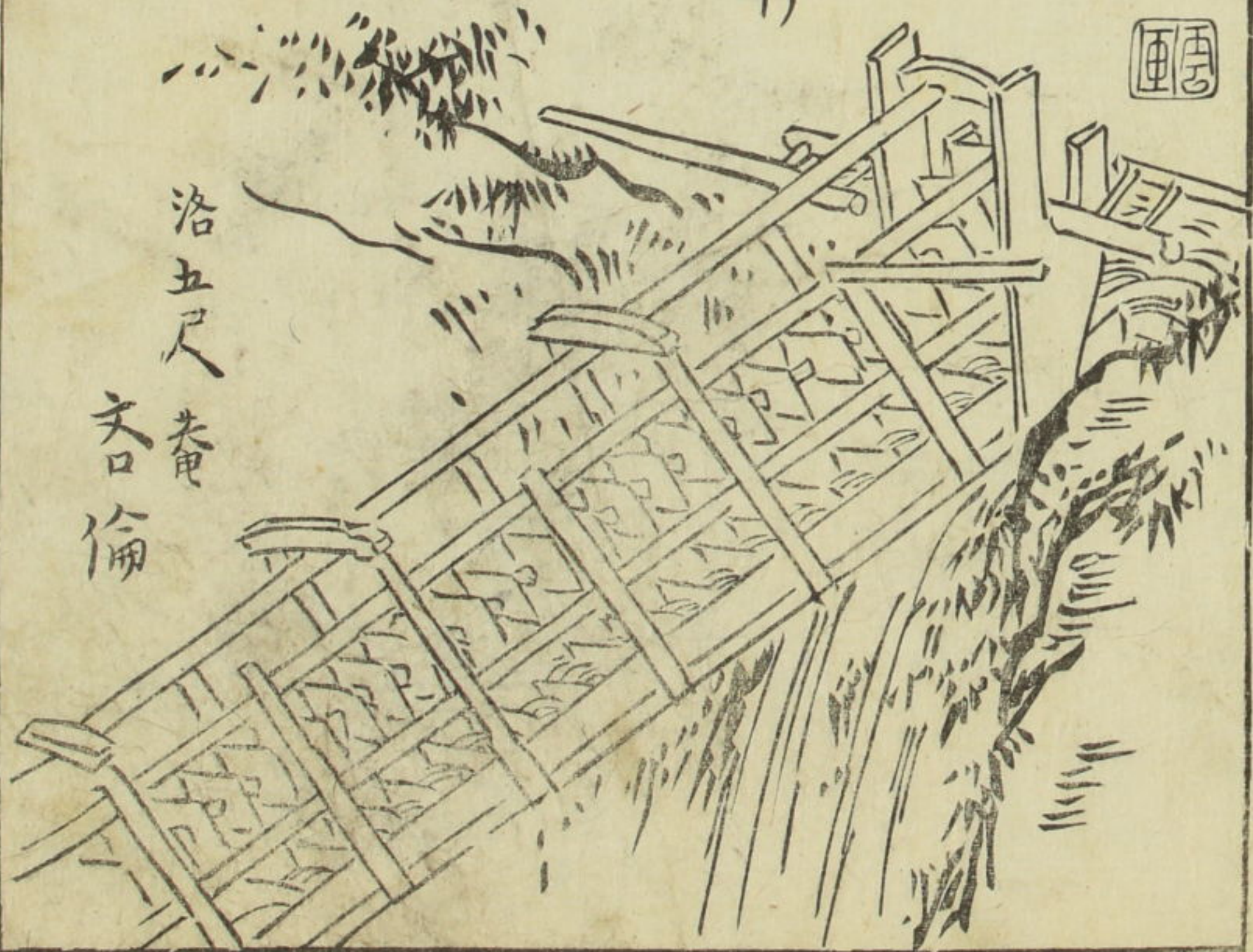




▲
イ
三
五



室へ垣くま
 ちん
 二星
 秋又行
 甘一落也
 人
 水
 水



洛五尺
 文口倫

△イ三六



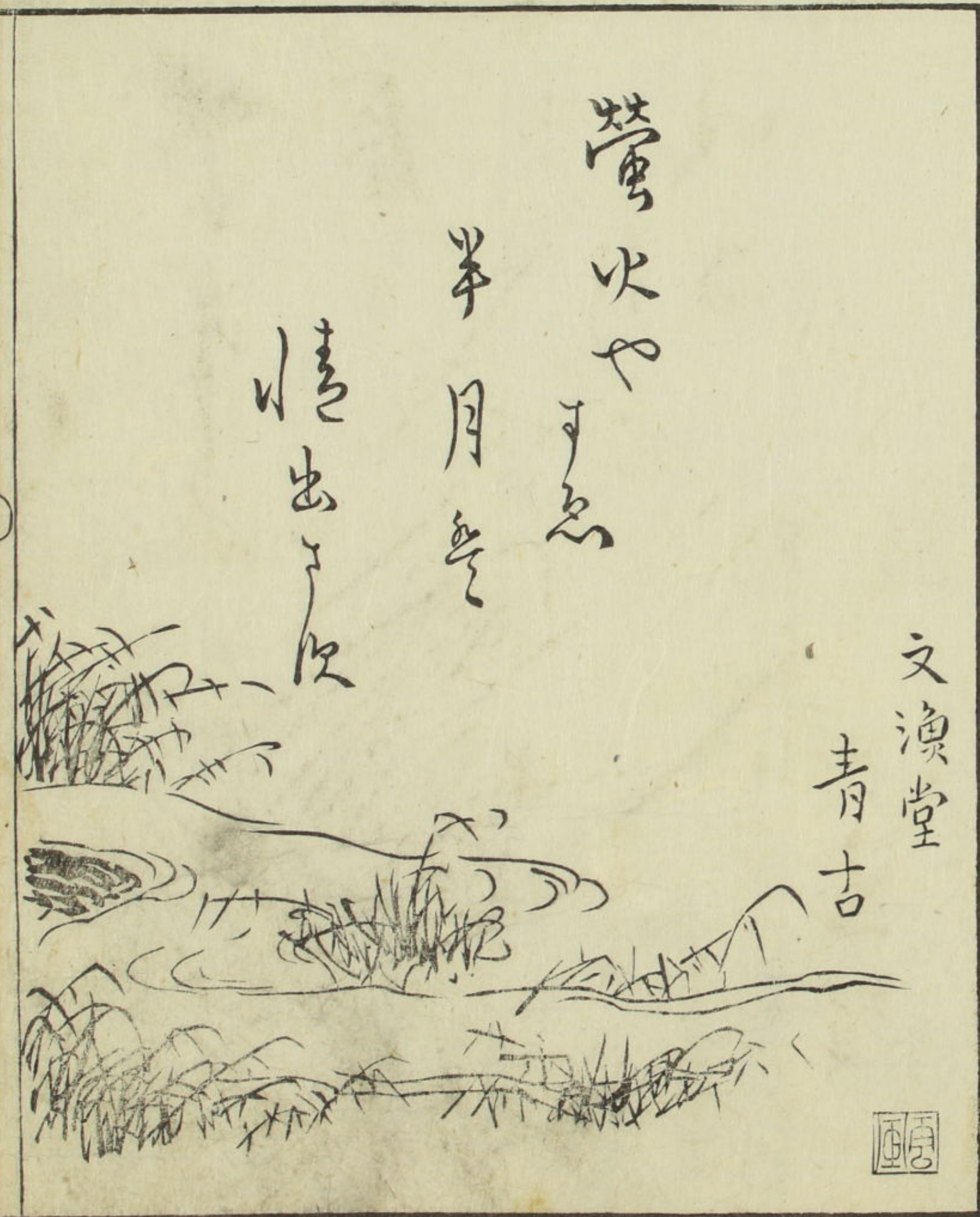
光
 市
 二星
 京
 時六





▲イ三六





螢火や
可念

半月を

情出に似

文漁堂

青古



▲イ三十九



世りきり

風ち

下

行

時

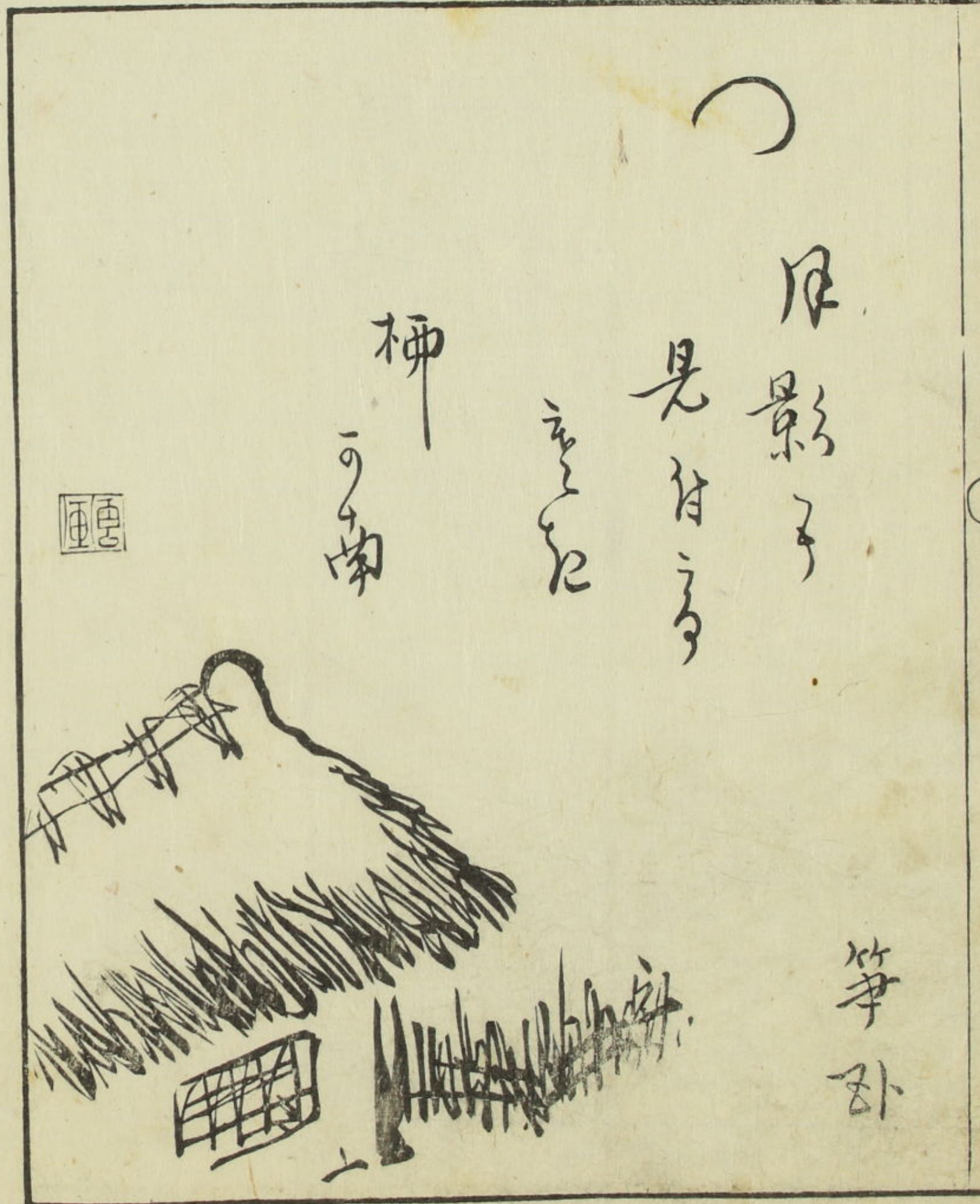
か

東賀



いんげん
雨に
あつた
さき
あつた

▲
イ
早



○
月影
見
付
た

柳
の
岸

田
田

筆
跡

後女

後女

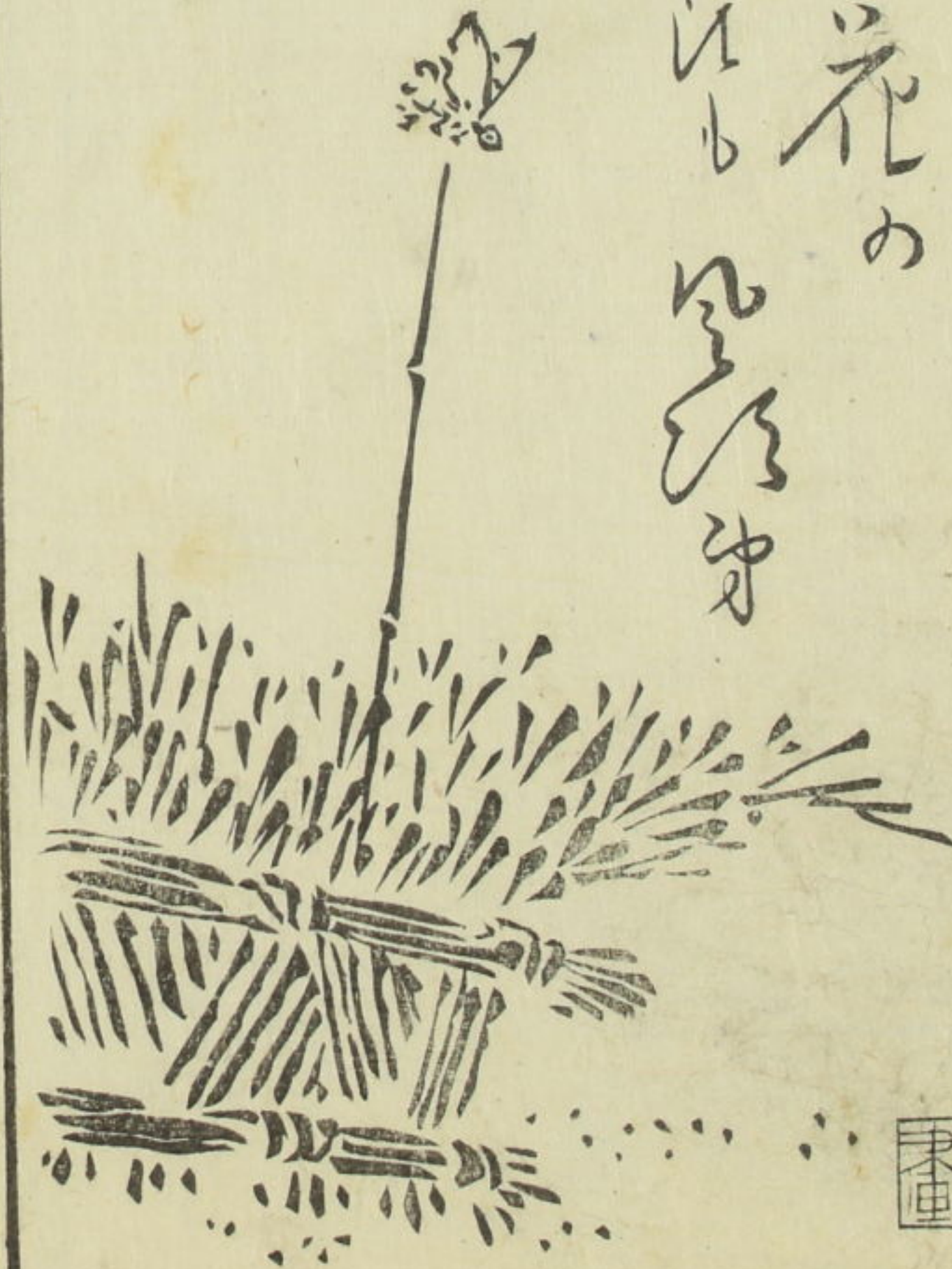
後女



後女

後女

後女



後女

宝曆癸酉仲秋月
一天無塵世所希

かとうのく

と秋は又夢は

真如月

適所

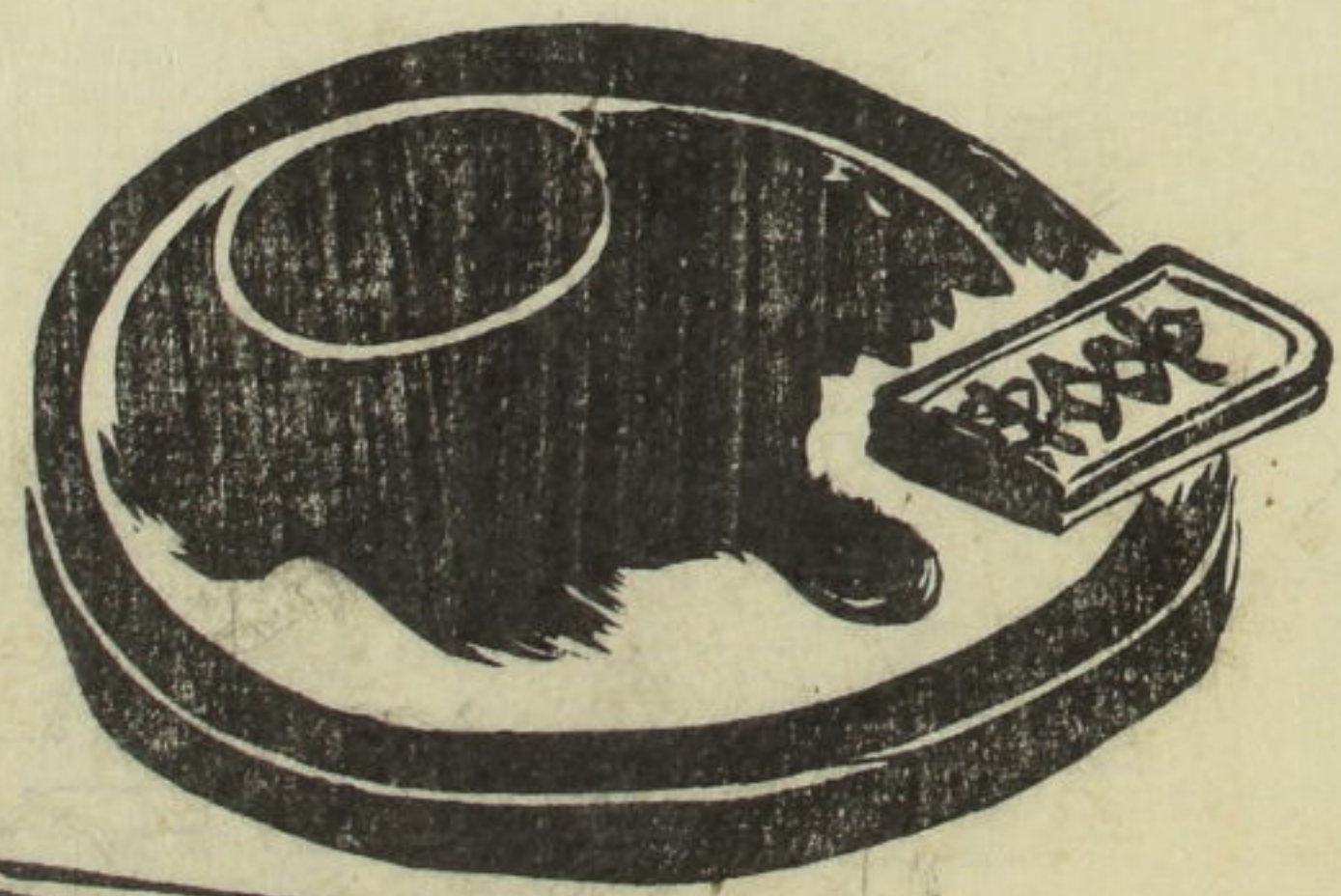


香席乃吟

車序也

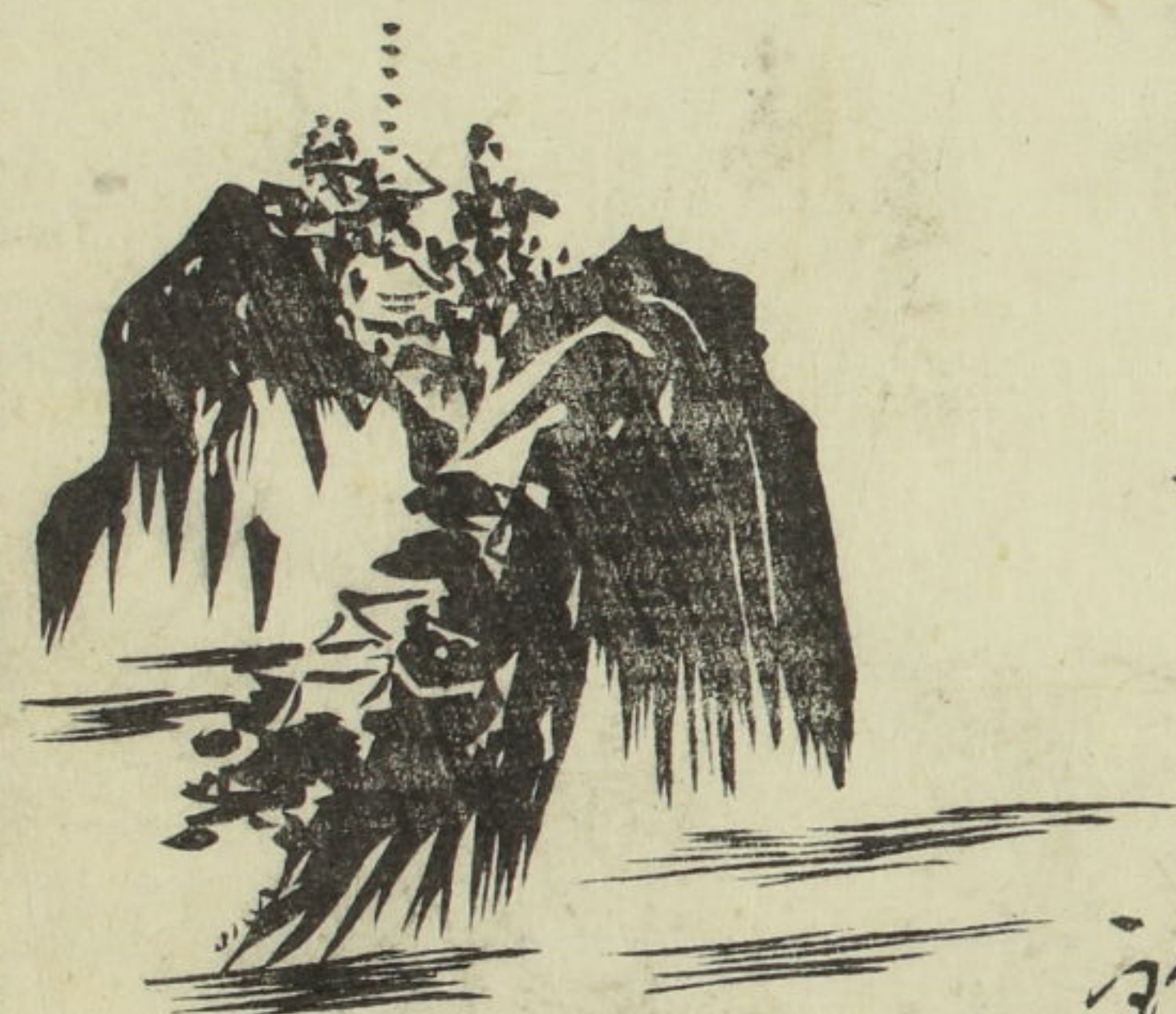
かた据神の

菊合



蘭室





のりや

鐘

五のり

梅の花

秋湖



▲イ四十三

六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



巴枕





芦選



似系輝尔
ゆ小天物の
はか母



△イ四十五



石山
岩
月
か
気
話

親子連

酉史



お少
子や
いと
絆
梅子
利



喚
籠



▲イ早六

標
大
七
睡
多
少
夕
涼

叙
夕



題筑十祭

を江乃也

何
後心

有子也



稲の敷

子路莊

應律



冬枯を

己もね

解

た
此

往來うま



巴
概

△イ四十七





泉州岸和田

風月亭

歌慶

桃々々也

志保也

知々也

明伏見



▲ 一四八



一故也

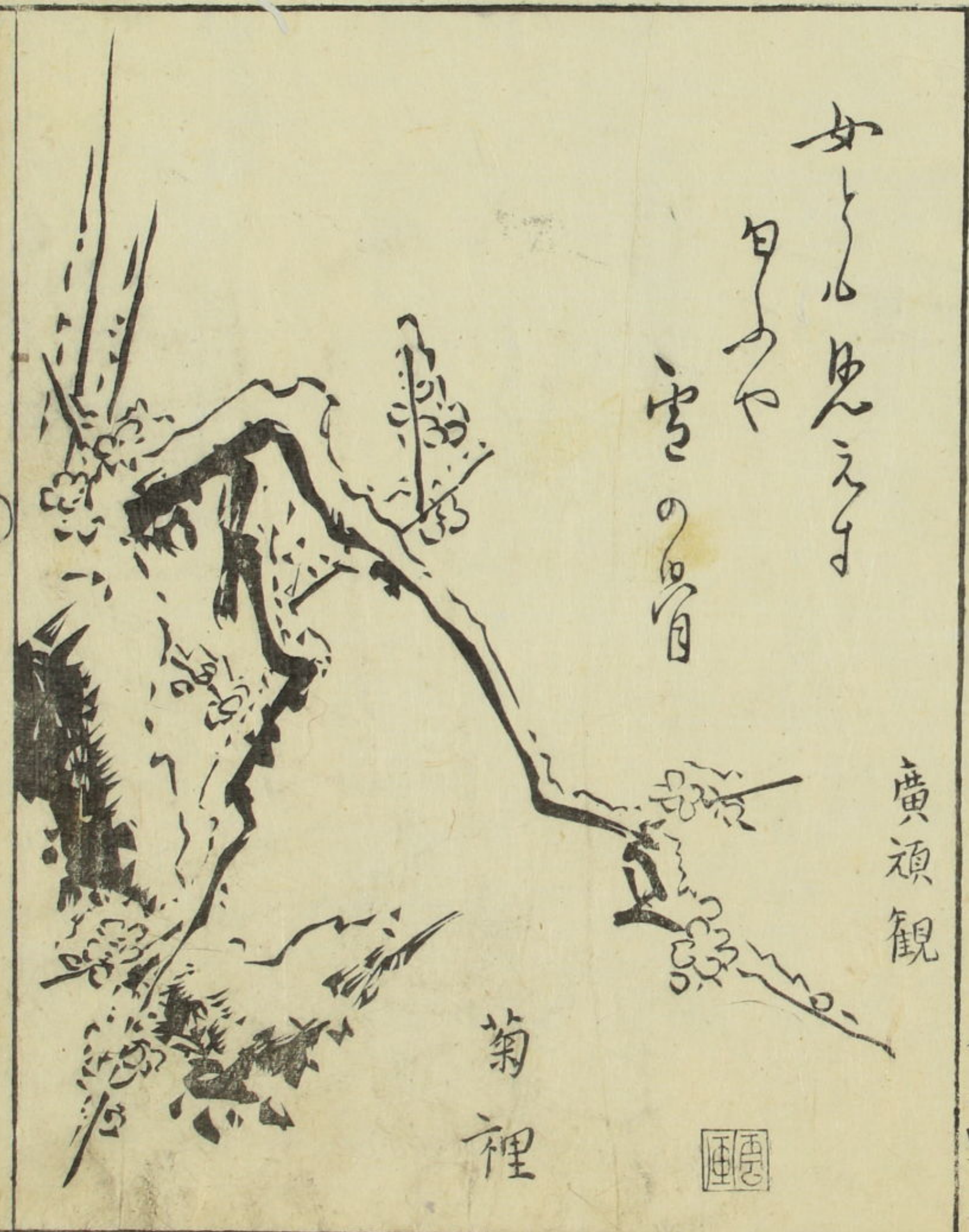
友雀菴

鬼測

26

草





如く心見えり
白くや

雪の目

廣頑観

菊裡



▲イ四十九



山古女

鐘や喜乃夜

道成寺



明習観

夕鳥



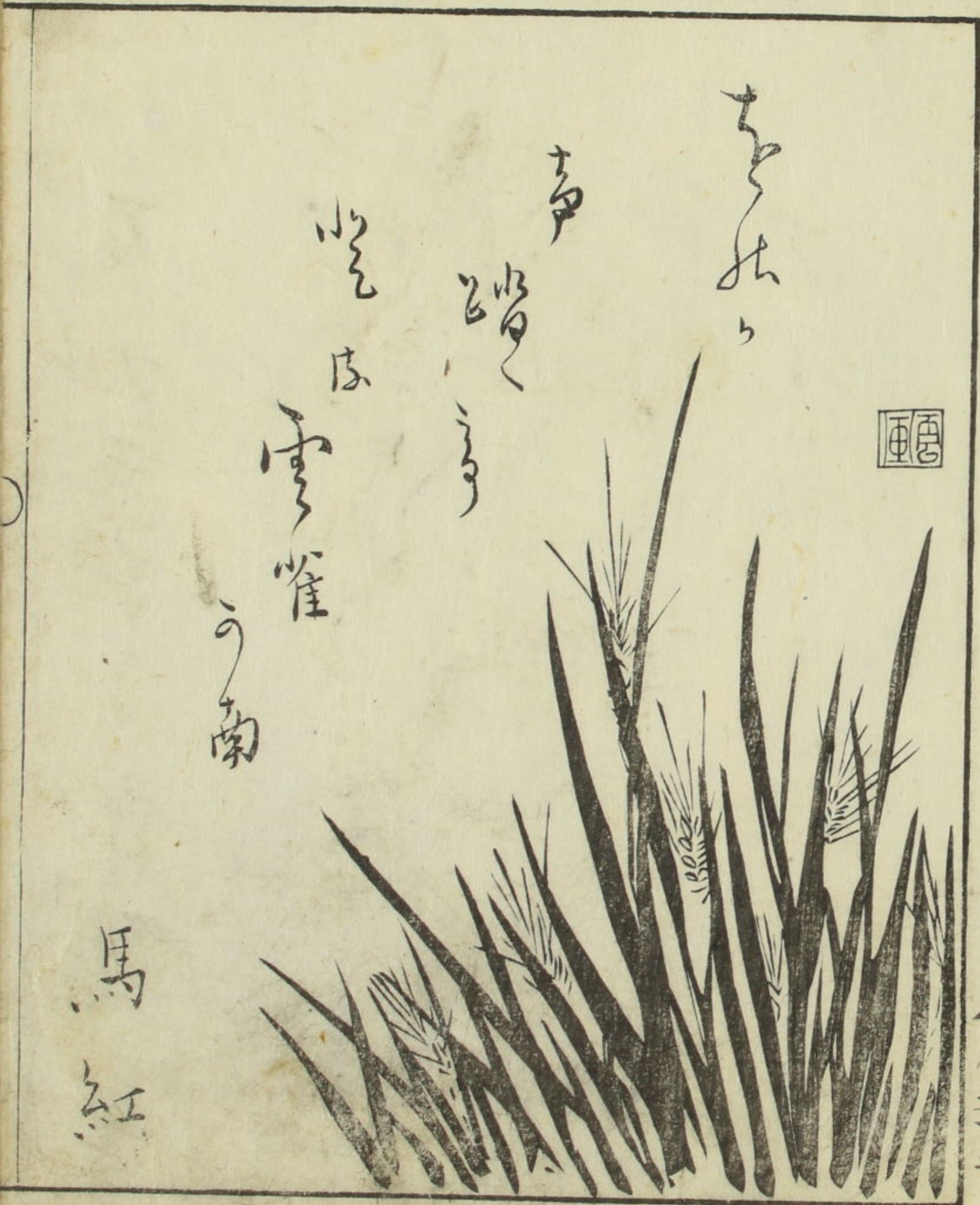
嘆
 まて
 花
 生
 如
 如
 意
 律

▲イ五十一



非
 涼
 振
 出
 有
 隣
 亭
 了
 古





たき

草

草

草

草

草



▲イ五十二

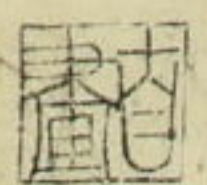
馬紅

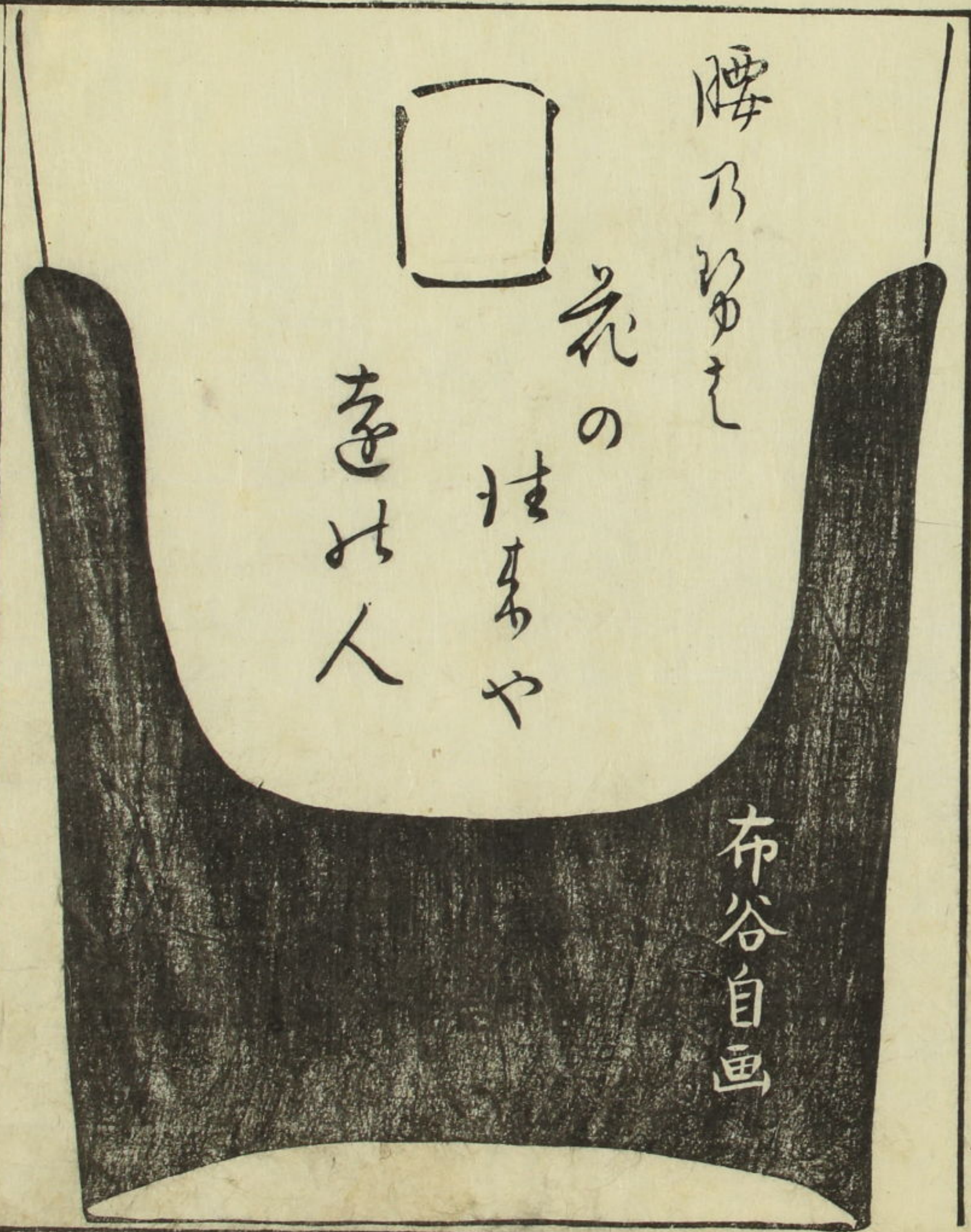


石大工家身部

石大工家身部

下物





腰乃ゆえ

花の

挂あや

衣人

布谷自画

▲イ五三



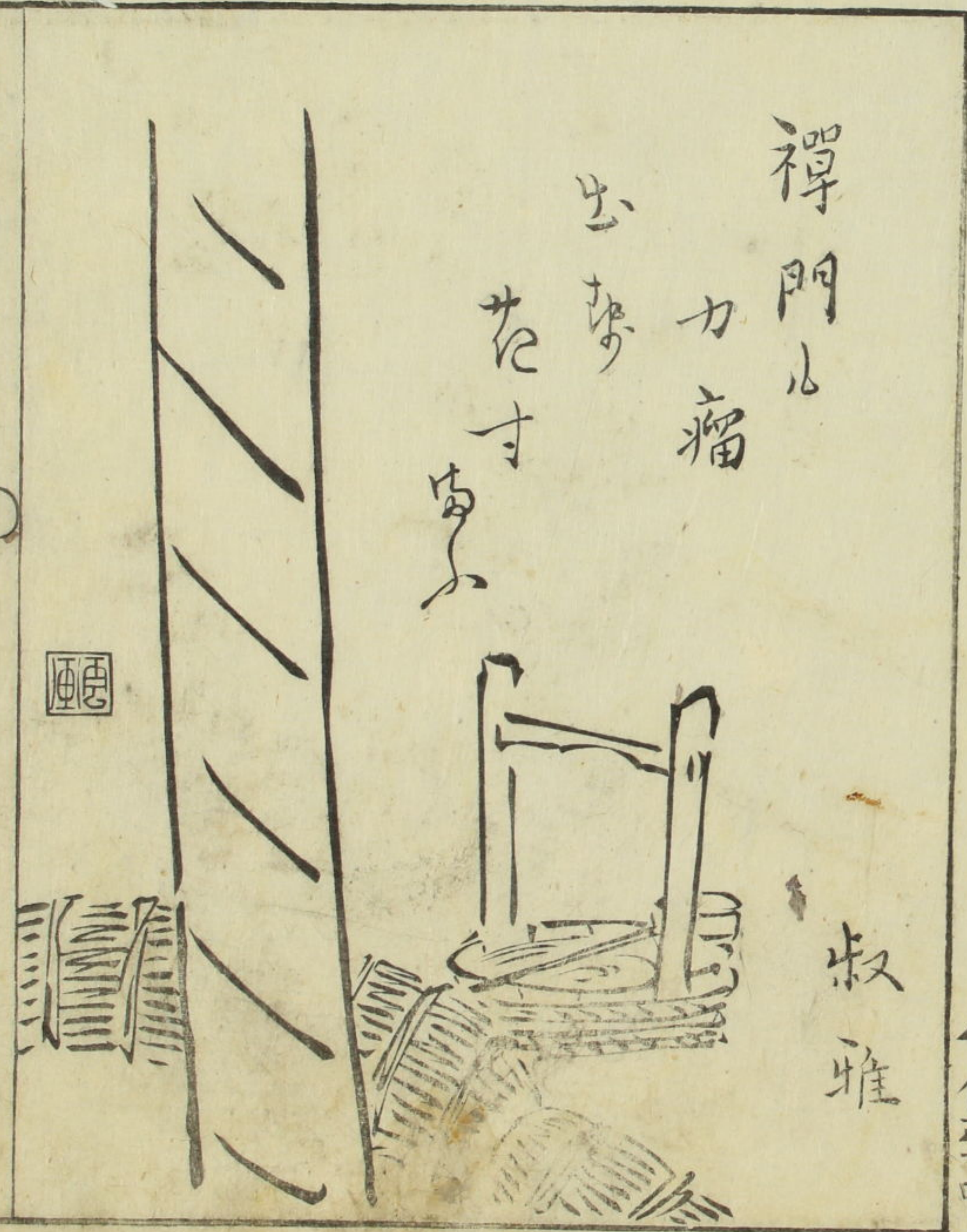
神くの

御旅所也

星月換

奥丈

印



禪門小

力瘤

出歩

花寸

笛小

叔雅



▲ 一八十四



山茶

卷中

常句

不知我之何

知一

人

千路莊



浪是東南郊外より孤窟あり
 如きんくには付井あり亦記あり
 むのし主人のありしと記されん
 楮上より楮下へ批下りては友
 小をるのりて今やその業後
 軒のたのむかけはあつたを
 待たふとせぬのし楮のすまむら
 下るひありたふしとてあつた



何れも又尋ねてすむる月を
 小舟もよみ今も何れもきた悔りも
 ありとも神さん風はくもあか
 花で色出ぬ浮世の枯らばり
 人老ありて家知るやふり

水さひぬ賀之知りぬ 叙々

襖とね

重五

招「泥」

有る

花「織」



勢中山

蘭古

▲イ再六



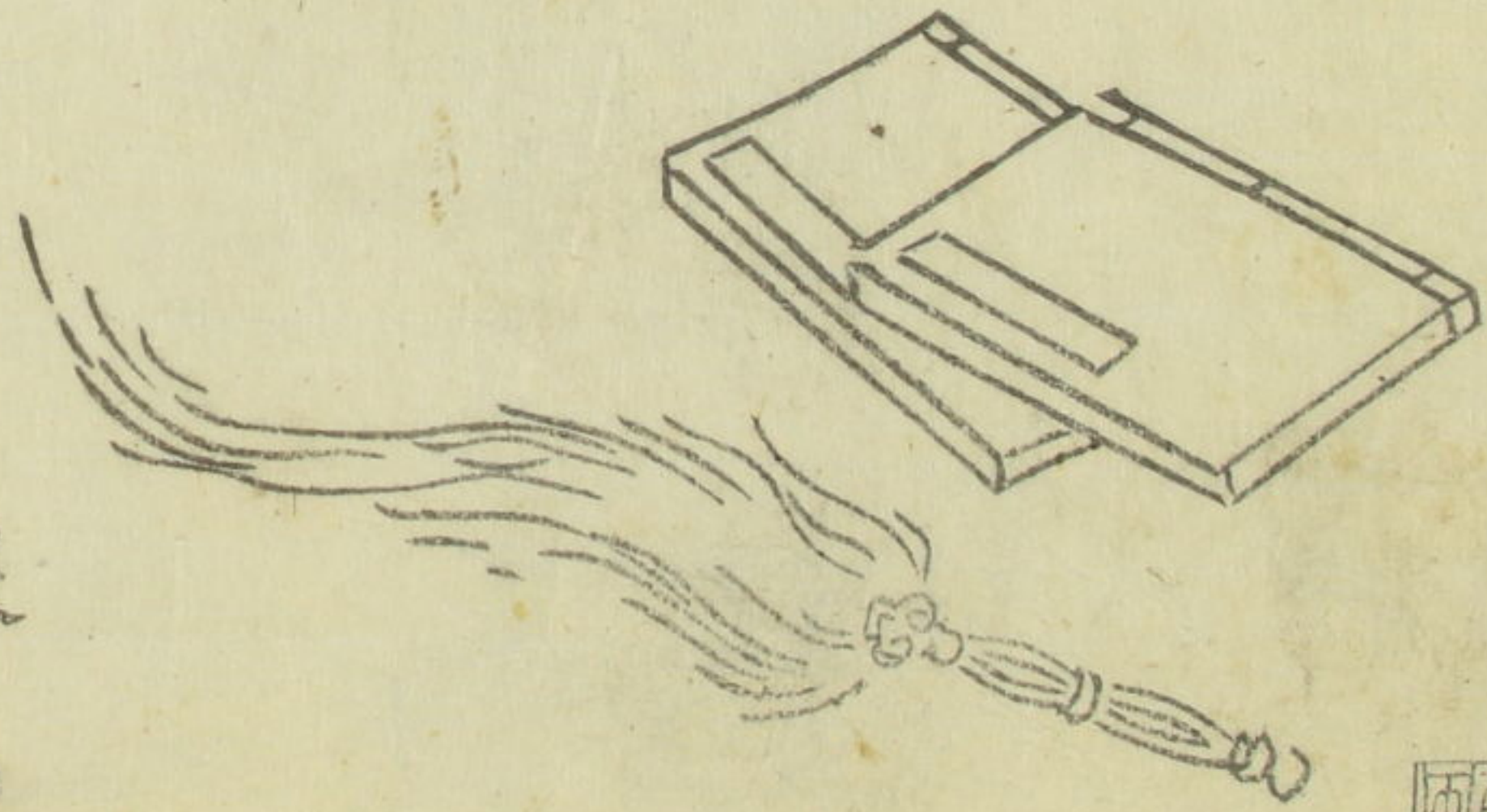
高懸

馬席と

一聲

可也

子鏡



根山



是之也

男亦解以粽之也

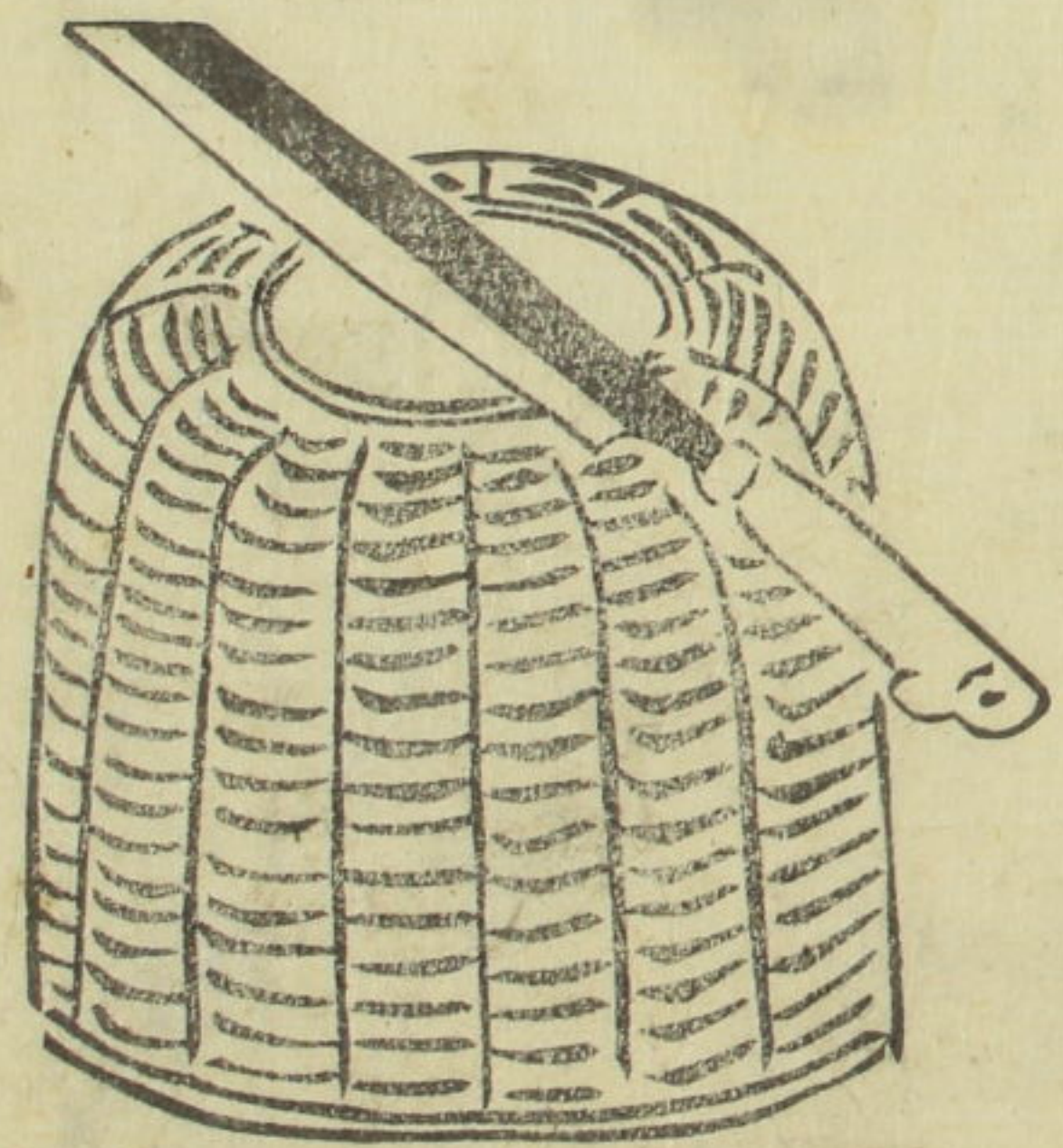


奥波



イ平七

灘乃所入
 昔之くさの菊



庫十

▲一五十八



初冬の吟
 更なる是
 時雨の
 産

初佐と羅



故園自画





破さるる葉を憤る

一水部

伊丹
雲郷

▲一五十九



高堆黄鼠

紅葉朝

日七
西陣や

夕景を
看る

東武

朝三

田舎



下敷を一日
 着る

紫栴

▲イ六十



秋興

折取もや折

取もや

男の局

伊丹

百外

自画



方兄



▲イ六十一



桂
花
留
雅
亦
友
枝
鳥



廿二日

計

去

荷旗齋

福壽



宜耦

香

夢

以

清

富天

7



拙考五葉白
秀逸如如

十南齋

七上起七拾八洞

栗林

松濤謹圖



百

卷

第

一